蓮花寺　地蔵菩薩立像

修復報告書

平成 24 年 12 月 8 日

巧匠堂

蓮華寺　地蔵菩薩立像修復報告書

作成日：2012 年 10 月 24 日

委　　託　　者　：　蓮花寺（奈良県高市郡明日香村大字細川　534）
修 復 責 任 者　：　吉水快聞
施　　工　　者　：　吉水快聞　中村祐子　黒柳奈未子　後藤友里　石橋康宏
修　復　期　間　：　平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 10 月 31 日
目　　的　：　像の尊容回復
内　　容　：　クリーニング、充填、後補彩色層の除去及び塗り直し、
欠失部の充填・新補、台座光背の新補　古色仕上げ

【修理方針】

◇彩色については後世に施されたとおもわれるが、頭部・手足といった肉身部の彩色層は比較的状態が良いが、衣部分の盛り上げ彩色は剥落・浮き上がりが著しく、保存状態も良くない。また、袈裟の意匠のつじつまも合っていたいため尊容を損ねていると判断し、肉身部の彩色は残し、衣部分の彩色層を除去し、本像の制作された時代を考慮した彩色の塗り直しを行うこととする。

◇頭体幹部の構造面では矧ぎ目も堅牢であり、今後の保存に耐えうる強度を持っていると判断したため解体修理は行わない。

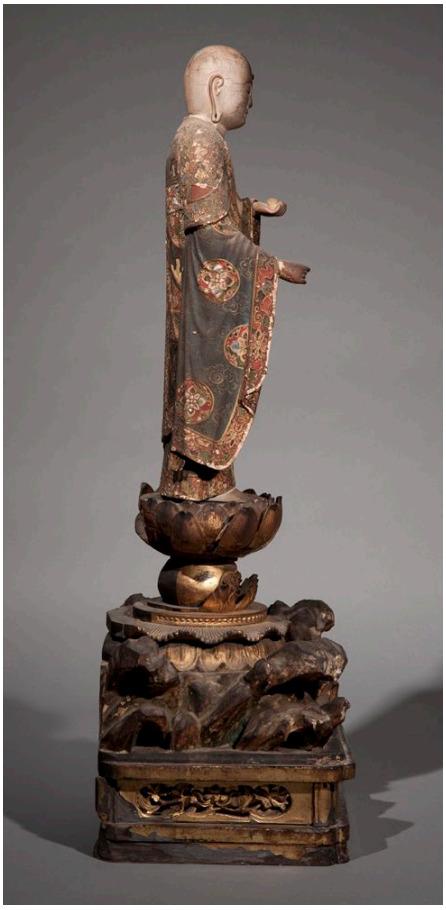
◇像全体に油煙の付着や埃の堆積がみられ、容姿を損ねていると同時に堆積が進行により湿気やカビ、害虫被害の原因にもなるためクリーニングを行う。

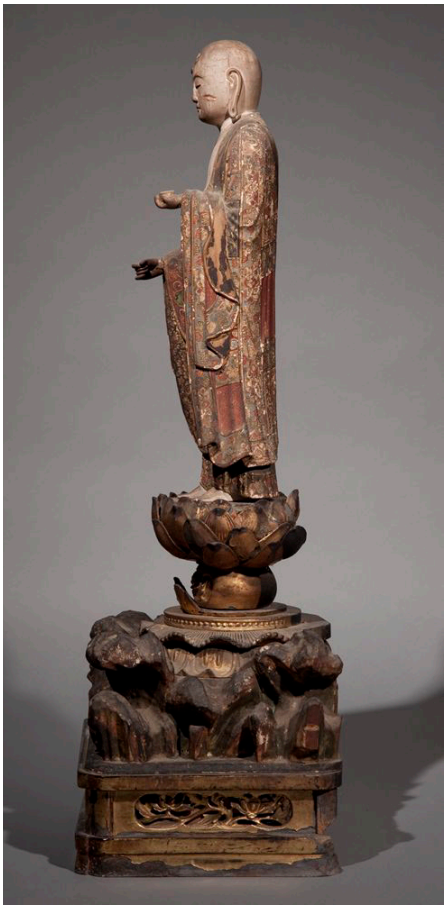
◇亡失した宝珠は檜を用いて新補する。

◇頭部、手足などの肉親部はクリーニングを行い欠失箇所には漆等で充填を行い、補彩を行う。補彩については古色仕上げとする。

◇江戸時代に補作されたとみられる台座・光背については、像の自立が困難なほど構造が脆弱になっており、本体との時代性も合致しないため、新補し古色仕上げとする。

修復前写真（全体）





修復前写真（本体）

【修理内容】

①　クリーニング

像に付着した虫の死骸や全体の埃を、柔らかい刷毛を用いて払い落とす。

左袖の内側部分に付着した虫の死骸や埃

肉身部については、エタノール精製水（１：１）を含ませた綿棒を用いてクリーニングを行う。全体的に油煙による汚れが頑固であったが、何度かクリーニングを重ねることで解消した。

クリーニング作業

左側処置後・右側処置前

②　後補　部分の除去

後補彩色層の除去についてはエタノール＋精製水（1：1）を含ませた脱脂綿を湿布し、除去する。湿布で除去できなかった部分については、エタノール精製水を含ませた綿棒や竹ベラを用いて、木地を傷つけないよう細心の注意を払いながら彩色層を矧がし、その後丹念にクリーニングを行った。

エタノール精製水による湿布

彩色層の除去作業

後補彩色層除去後

③　充填

・頭部の剥落及び窪み部分、各欠失箇所、矧ぎ目の隙間には木屎漆（漆＋小麦粉＋木粉）を充填し、乾燥後に表面を整える。

・木屎漆を整形後、地の粉錆（漆＋地の粉）、砥の粉錆（漆＋砥の粉）の順に塗り重ね、研いで表面を仕上げる。

〈頭部〉

木屎漆　充填前

木屎漆　充填後

〈矧ぎ目の隙間〉

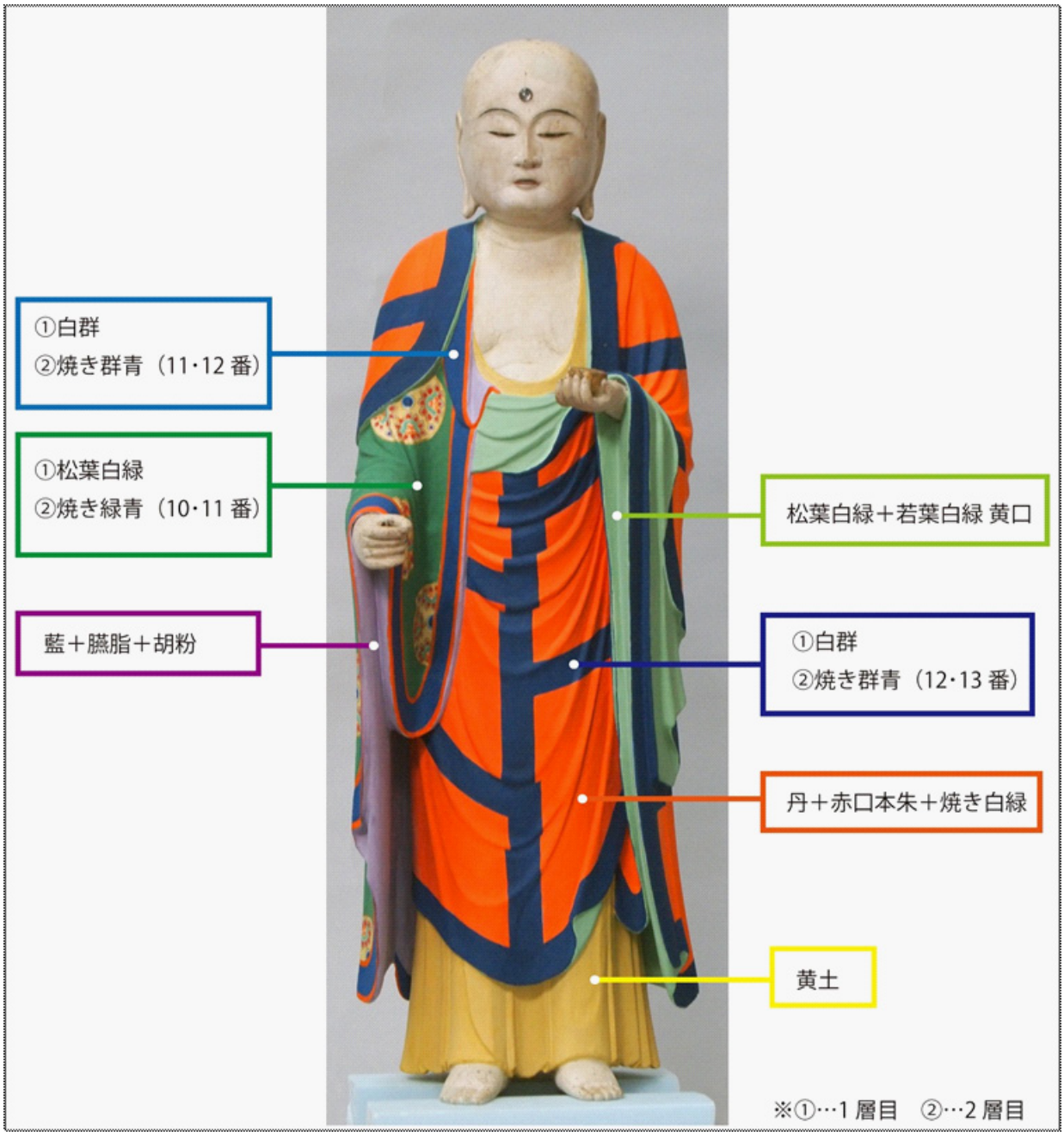
充填前

充填後

充填箇所の錆漆塗り、研ぎ仕上げ後

④　衣部分の彩色及び截金

本像が制作されたと思われる周辺時代の仏像彩色を参考にし、天然顔料を使用して新たに彩色を行う。当初の肉身部彩色との違和感を最小限にするために、絵の具を焼き、また複数の色を混ぜるなどして、彩度や明度を下げ、若干の調整を行った。



なお、新たな彩色及び截金を施す際に参考とした基準作例は以下のとおりである。

・藤田美術館蔵　地蔵菩薩立像（重要文化財　鎌倉時代）
・東大寺公慶堂蔵　地蔵菩薩立像（重要文化財　鎌倉時代）
・東大寺俊乗堂蔵　阿弥陀如来立像（重要文化財　鎌倉時代）

彩色の工程については、膠で木地を固め、白土塗り、下地塗り、本塗り、団花文の紋様描きの順に行った。団花文は繧繝彩色に金泥で縁取り、その後衣部全体に截金を施した。

白土塗り

下地塗り

団花文の紋様描き

団花文完成

截金　工程前

截金　工程後

⑤　新補及び補彩

宝珠の新補には檜材を使用。新補部及び木地が露出した箇所に、像全体に違和感のないよう白土で下地を塗り、容易で修理箇所の判別可能なアクリル絵の具を用いて補彩を行う。なお、補彩についてはすべて古色仕上げとする。

補彩前

補彩後

⑥燻蒸

当初の彩色と新たな彩色の違和感を馴染ませるために、肉身部のみを養生したのちに、新たに彩色及び截金を施した衣部分を線香で燻して古色付けした。

⑦錫杖及び胸飾りのクリーニング

重曹水に２，３分浸け、流水で油煙の汚れを洗い流し、良く乾燥させる。

胸飾りはその後、脆弱な針金部分を外し新たに銅線にて硝子玉等を繋ぎ合わせた。

クリーニング前　　クリーニング後

⑥台座・光背の新補

江戸時代に補作されたとみられる台座光背については、構造が脆弱になっており、保存状態が悪く、意匠についても本体との時代性が合わないため、本体との時代性を考慮し新補し古色仕上げとした。

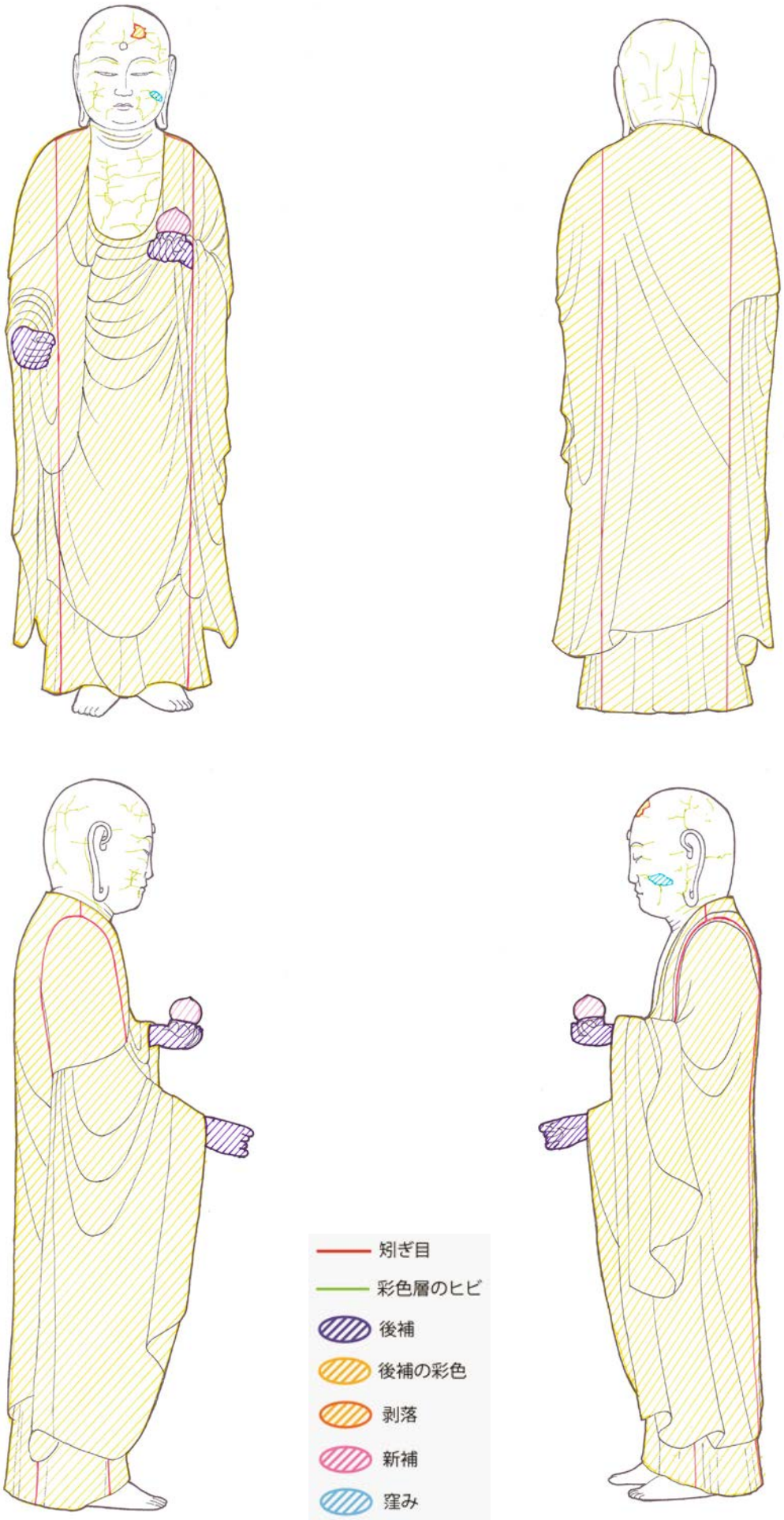
江戸時代の後補の台座

ヒノキ材で台座を新補

彩色・截金（古色仕上げ）

江戸時代の後補の台座・光背

今回の修復で新補した台座光背
（古色仕上げ）


矧ぎ目
彩色層のヒビ
後補
後補の彩色
剥落
新補
窪み

修復後写真（全体）

修復後写真（本体）